



江の島ヨットクラブジュニアからの提案

JSAF 環境コンテスト 2013

RRS2013-2016 の改定において新設された「環境責任」には、「参加者には、セーリングスポーツが及ぼすいかなる悪影響も最小限にすることが奨励される。」とされています。

ヨットレースをはじめ、セーリングスポーツには運営艇やサポートボートも含めて多くのエンジン付ボートがその活動の参加者の一員となり、特にレースにおいては年々その数が増加の一途にあります。

自動車など環境保護のため必要以上のアイドリングはエネルギーの無駄遣いとなり「アイドリングストップ」が奨励されている現状の中で、洋上のエンジン付ボートも同様の考え方が成り立ちます。

本来、風や波、潮など自然の流れの中で取り組むヨット競技において、化石燃料を使用するエンジンの使用は海洋汚染や CO2 排出など、自然の流れを阻む要素が多く含まれており、これらの使用を最小限にすることを意識しながらセーリングスポーツに取り組むことこそ、悪影響を少しでも削減する取り組みになることと思います。

セーリングスポーツにおける環境責任の観点からも、無駄な CO2 排出の削減と共に、きれいな風、きれいな空気を守るために、美しい地球と海洋の保護のためにも、活動中の無駄なエンジンのアイドリングを極力避ける取り組みを提案いたします。

特に、レースにおける運営艇及びサポートボート、観覧艇も含めて、艇長、乗船者の意識としてエンジンの無駄なアイドリングを止め、また海上で定点で止まるために前後進を繰り返すのをやめて、長めのチェーンをつけた小型のアンカーを有効に気軽に使用して無駄なアイドリングを避けるなど、なるべくエンジンを停止する運動を提案いたします。

「ストップ! アイドリング。残したいのはきれいな海」

「Stop! Idling. Save the OCEAN.」をスローガンとしたステッカーを配布して活動に携わるエンジン付きボートに貼付し、活動中における無駄なエンジンの使用、アイドリングの停止を奨励して行きたいと思えます。レースの際には本部船には JSAF 環境フラッグを掲げ大会全体において本運動の意識を高めていくことができれば理想的なことと思います。



江の島ヨットクラブジュニアは設立 50 年

我々、小中高校生を対象とした、セーリングを通してジュニア・ユースの育成を担うクラブにとって、レースでの結果にこだわり、成績にばかり目を奪われるのではなく、それをサポートする指導者や父兄も含めてセーリングスポーツにおける環境への意識を日常の活動のなかで至極当然に高めると共に、セーリング界全体の未来において、環境に対する強い責任意識を持つ優れたセーラーを育成する、将来性の高い価値ある運動となると信じます。本運動をジュニアセーリング界からセーリング界全体に普及させていくことで、セーリングスポーツの社会的地位を高め、環境保護等の社会的認識の高まりと共にセーリングスポーツの普及にも役立てることと考えています。



江の島ヨットクラブジュニア
JSAF 環境コンテストチャレンジ委員会